

基本施策評価シート

基本施策最終評価

B

基本施策通し番号 30

基本施策 地下水の保全と湧水文化の再生

構成施策

施策番号	施策名	施策最終評価
施策1	地下水保全活動の啓発と支援	B
施策2	地下水の保全	B
施策3	湧水文化の再生	B

成果指標

指標	内容	平成32年度 目標	平成30年度末 実績	単位	平成30年度の成果の検証
11月の平均地下水位	大野市地下水保全管理計画に基づく、3カ所の基準観測井における11月の平均地下水位	御清水観測井 1.20未満 春日公園観測井 5.50未満 菖蒲池(浅井戸)観測井 7.00未満 (過去5年間の平均)	御清水観測井 1.29 春日公園観測井 6.04 菖蒲池(浅井戸)観測井 7.21	m	成果指標となる11月の平均値では、3カ所の基準観測井すべてで、基準を上回る状態となった。平成30年度は、10月の降水量が平年の2分の1、11月の降水量は昭和51年からの観測史上最低を記録し、極度の少雨となったことに加え、毎年10月から開始する水田湛水事業が真名川頭首工の工事の影響で12月からと開始時期が遅れたこともあり、地下水位を低下させる方向に影響を与えた。

後期基本計画策定時の「現状」と「課題」

現状	高度経済成長期以降、地下水位の低下や湧水の減少が進み、貴重な資源である地下水や古くから受け継がれてきた湧水文化の後世への引継ぎが困難になりつつある。
課題	この湧水文化を後世に引き継いでいく環境を創り出すため、市民や企業、団体、関係機関などがそれぞれの役割を担い、市全体で総合的な取り組みを進める必要がある。

社会情勢・市民ニーズの変化

湧水地周辺の住民による清掃活動等湧水地の保全活動や市民団体による河川清掃など継続した活動が行われている。加えて、水への恩返しキャリングウォータープロジェクトを通じて、市民に水の有難さを再認識する機会や、子どもたちが水の大切さを学ぶ機会が増えており、また、事業の趣旨に賛同する市民団体などの自主的な活動も広がりを見せている。

現在の「現状」と「課題」

現状	地下水保全の活動が市民の中で広がりを見せているものの、全体的にはまだまだ地下水の節水に対する市民意識が低く、節水や有効利用のための施設整備の取り組みが少ない。降水量による影響は大きいものの、市内の地下水位は経年的に回復傾向にあり、地下水保全管理計画および湧水文化再生計画に基づく各施策の効果が表れてきている。
課題	・広く市民への広報活動を行うことで、地下水に関する市民意識を醸成するとともに、地下水の節水等のための取り組みを促進する必要がある。 ・国の「水循環基本法」の施行等に対応するため、市域全体における水循環を網羅した「(仮称)越前おおの水循環・湧水文化再生計画」の策定を進め、市民の水循環に関する意識を高めていく必要がある。

基本施策の「成果」

成果	地下水保全の具体的な数値目標として定める基準観測井(御清水、春日公園、菖蒲池)での最終保全目標水位を下回った日数(年間延)は、平成21年度に560日(3観測井計)あったが、平成25年度には0日となり、国による真名川ダムの弾力的な運用管理と、県による真名川の水際掘削・河岸撓乱、市が実施する冬季水田湛水面積の10haから30haへの増加といった取組みの成果により地下水位の回復傾向が続いていた。平成28年度には年間の降水量が少なかった影響が大きく147日となったが、平成29年度には豊水年であったこともあり再び5日となった。平成30年度は11月が観測史上最低の降水量となり、冬季の積雪量も最低を記録した影響で、169日下回る結果となった。大野市の地下水は降水量や降雪量の影響を受けやすく、今後も継続した取組が重要である。
----	---

改善点

・水への恩返しキャリングウォータープロジェクトのさらなる市民周知を行い、市民の自信と誇りの醸成を図る。
・大学等研究機関との地下水に関する研究(安定同位体を用いた地下水流動調査、小学校と連携した水温調査等)を継続して行き、水の研究拠点を整備し、地下水の保全や有効な利活用を推進する。
・地下水保全活動の啓発と支援について、近年は井戸枯れ等の深刻な地下水障害が発生しておらず市民の地下水保全の意識は必ずしも高いものではないため、これまでの啓発や支援に加え、水への恩返し事業等を通じ、地下水保全意識の醸成を目指す。
・地下水の保全については、降水量等の自然環境に起因する部分が大いだが、各種計画等に基づく施策を効果的にを行い、また市民の地下水保全の意識向上を促し合理的な地下水利用を進めることで、健全な水循環の確立を目指す。
・上水道も同じ地下水を水源としており、水循環の役割を担う観点からも関係部署と連携した周知・啓発による加入促進を図る。